

## 講和談判筆記第六回本會議

明治三十八年八月十七日午前九時四十五分開會

列席者 前回ニ同シ

小村男 本日ハ第九條ノ討議ニ移ラントス之ニツキーノ覺書ヲ認メ置キタレハ今之ヲ貴方ニ提出シ研究セラレムコトヲ請フ(トテ左ノ覺書ヲ提出ス)

第九、日本國全權委員ハ本條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所說ニ對シ最モ慎重ナル考量ヲ加ヘタルモ露西亞國全權委員カ本件日本國ノ要求ヲ認諾スルコトヨリ演繹セムト欲スル所ノ結論ニハ同意ヲ表スルコト能ハス右日本國ノ要求ヲ認諾スルコトハ決シテ露西亞國ハ今後戰爭ヲ繼續スル能ハストノ推論ヲ生スヘキモノニアラス日本國全權委員ハ露西亞國ニ對シ屈辱的性質ヲ有シ又ハ大國ノ威嚴ノ真正ナル意義ト相容レサルカ如キ條件ヲ要求スルノ意思毫モ之レアルナク却テ事ノ實際ニ鑑ミ軍費拂戻ノ主義ヲ認諾スルハ日本軍力是迄常ニ成効ヲ博シタル歴史的事實ヲ認識スルニ外ナラサルコトハ文明世界ノ普ク異論ナキ所ナルヘキヲ信ス

日本國ノ要求ハ毫モ間接若クハ因縁的性質ノモノヲ包含セス嚴ニ戰爭ノ直接實費ノミニ制限セラレタルモノニシテ該範圍迄ハ日本帝國政府ニ於テ拂戻ヲ受クル正當ノ權利アルモノト確信ス故ニ日本全權委員ハ該要求ヲ拋棄スルコト能ハス然レトモ實際用フヘキ形式並拂戻金額整定ノ問題ニ關シテハ日本國全權委員ハ交讓妥

0267

協ノ精神ヲ以テ之ヲ議セムトスルノ覺悟ナルヲ以テ露西亞國全權委員ニ於テ右等ノ事由ニ鑑ミ本件ヲ再考セラレムコトヲ熱望スルノ已ムヲ得サルヲ感ズ(原文英文及佛譯文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 貴方ニ於テ書面ヲ以テ覺書ヲ提出セラレナハ我方ヨリモ書面ヲ以テ之ニ答フヘシ然レトモ此ノ問題ニ就テハ講和談判ノ當初ヨリ我回答書ニ認メ置タル如ク我方ノ趣意ハ既ニ明瞭ニシテ此上論議ヲ重ヌルモ無効ナラム

小村男 日本全權委員ハ其ノ提出シタル覺書中ニ於テ露國ノ回答ニ對シ交讓ノ精神ヲ以テ覆答シ置キタリ然ルニ露國全權委員ニ於テ此ノ問題ノ討議ニ入ルコトヲ全然拒絕セラル、ハ遺憾ノ至ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ此ノ問題ノ理由ニ就テモ討議ヲ拒絕スト云フニアラス理由ニ就テ意見ヲ交換スルコトハ辭セサルモ之カ爲メ我方ノ決意ハ決シテ動スコト能ハサルコトヲ云フナリ

小村男 凡ソ双方意見ヲ異ニスル點ニ付其ノ解決ヲ得ル唯一ノ方法ハ双方間ニ和衷交讓ノ精神ヲ以テ意見相違ノ理由ニ付討議ヲ爲スニ在リ

「ウヰッテ」氏 本員ハ曩ニモ言ヘル如ク此ノ問題ニ就テハ到底意見ノ一致ヲ見サルモノト認ム斯ル要求ニ應セムヨリハ寧ロ戰爭ヲ繼續スルヲ好マン露國ハ戰爭ヲ繼續スルコトヲ充分ニ決心シ居レリ

小村男 日本ニ於テモ戰爭繼續ニ對スル決心ハ甚タ鞏固ナリ然レトモ兩國徒ラニ戰爭

ヲ極點迄推行スル前ニ事ヲ纏ムルノ方法ヲ講スルヲ肝要トス

「ウヰッテ」氏 償金要求ノ理由カ日本ヨリ提出セラレタル儘ニテハ本問題ヲ討議ニ上ス  
コトヲ得ス日本ニ於テ露國ノ軍費ヲ支拂フコト能ハサルト同シク露國ニ於テモ日本  
ノ軍費ヲ支拂フコト能ハス即チ日本カ露國ニ向ツテ害ヲ與ヘタル費用ハ到底之ヲ仕  
拂フコトヲ得ス唯我方ノ利益ノ爲メニ要シタル費用即チ露國俘虜ノ爲メニ要シタル  
費用ノ賠償ヲ以テ理由トセハ露國ハ之ヲ支拂フコトヲ覺悟セリ國際法上双方ノ地位  
今日ノ如キ狀態ナルニ於テ決シテ償金ヲ拂フヘキ理由ナシ

小村男 コハ國際法ノミニ關スル問題ニアラス吾人ノ研究ヲ要スル任務ハ如何ニシテ  
戰爭ヲ終局セシムヘキカニ在リ而シテ戰爭ヲ終局スルニ付其ノ戰爭ニ成効シタルモ  
ノヨリ或條件ヲ提出スルハ素ヨリ當然且合理ノ事ナリ

「ローゼン」男 二三ノ戰鬪ニ於ケル勝利ハ此ノ種ノ要求ヲ正當ナラシムルコト能ハス

小村男 茲ニハ露國カ果シテ戰敗國トナリタリヤ否ノ問題ヲ研究スルニハアラス戰爭  
ヲ推行シテ終極迄及ホスコトナク如何ニ之ヲ終局セシムヘキヤヲ研究スルニ在リト  
スコハ双方カ和衷ノ精神ヲ以テ討議スルニ非サレハ行ハレサルコトナリ

「ローゼン」男 今日迄露國委員ノ爲メニ妥協ニ歸シタルコトハ本員等カ和衷ノ精神ナル  
コトヲ示セリト認ム本員等ハ自ラ認メテ以テ公平ト爲ス所ノモノハ皆之ヲ承諾協定  
セリ故ニ本員等ニ和衷ノ精神ナシト云フヘカラス

「ウヰッテ」氏 只今ノ「ローゼン」男ノ談ニ加ヘテ言ハン露國ハ平和ヲ希望セリ然レトモ如

何ナル價ヲ拂フモ之ヲ得ルコトヲ要スルニ非ス只予一身ノ經歷ヨリ一ノ財政家トシテノ見地ヨリ云ハンニ若シ今後露國カ此ノ事ノ爲メ金額ノ支出ヲ要ストセハ之ヲ償金トシテ日本ニ支拂ハンヨリ寧ロ戰爭繼續ノ用ニ供セム露國人民モ只戰爭繼續ノ爲メナラハ資金ヲ出スヘキモ日本ヘ支拂フ償金ノ爲メナラハ之ヲ出サ、ルヘキナリ

小村男 此ノ問題ヲ考究スルニハ只財政上若クハ其ノ他單獨ノ事情ノミナラス總テ國家全般ノ事情ヲ考慮セサルヘカラス而シテ國家全般ノ事情ヲ周到ニ考慮スルコトハ只國民全體ノコトヲ知ルモノニ由リテノミ之ヲ爲スコトヲ得全體ヲ考慮シテ果シテ戰爭繼續ヲ利益トスルカ又ハ相當ノ犠牲ヲ以テ平和ヲ結フヲ利益トスルカヲ判セサルヘカラス若シ露國ニシテ戰爭繼續ニ決心セリトノ事ナレハ日本ニ於テモ亦等シク戰爭繼續ニ決心セリ只此ノ場合果シテ全般ノ利益孰レニ在リヤヲ考フルコトヲ必要トスルノミ

「ウヰッテ氏 軍費賠償ハ決運的戰敗ヲ蒙リタル國卽チ此ノ上戰爭ヲ繼續スル能力ナキニ至リタル國ニ由リテノミ仕拂ハルヘキモノナリ我露國ハ未タ全局ニ於テ敗衄セルモノト認メス只今日迄戰鬥ニ於テ失敗ヲ爲シタルノミト認ムルノ地位ニ在リ故ニ軍費賠償ハ諾スルコト能ハス

小村男 今回ノ講和談判ニ付我條件ヲ提出スルニ當リ帝國政府ハ平和締結ニ絶對的必要ノ條件ナリト認ムルモノヲ定メ且最モ穩當ナリト信シ之ヲ提出シタルヲ以テ之ニ對シテハ必ス協定スルヲ得ルコト、信シ居レリ

0270

「ウヰッテ」氏 我方ニ於テハ貴方提出ノ條件ヲ以テ穩當ナリト認ムルコト能ハス此ノ條件ノ如キハ今日ノ如キ状態ノ下ニ在リテハ既往ノ成績ヲ認ムルヨリモ寧ロ將來ノ事ニ關スルモノト云フヘシ此ノ點ニ於テ本員ハ貴方ト觀察ヲ異ニス

小村男 日本ニシテ若シ將來ノ事ヲ考量シ條件ヲ案出セシナラムニハ決シテ今回提出シタルカ如キモノニハアラサリシナラム

「ウヰッテ」氏 コハ兩政府各相當ノ考ヲ有ス故ニ双方一致セサルハ已ムヲ得サルナリ要スルニ我方ハ貴方ト考ヲ一ニスルコト能ハス我方ニ於テハ向後尙久シク戰爭ヲ繼續スルコトヲ得ルナリ

小村男 露國カ戰爭ヲ繼續スルヲ得ルハ本員ニ於テ之ヲ否認セスト雖日本モ亦戰爭ヲ繼續スルコトハ勿論之ヲ爲シ得ルナリ而シテ今後ノ戰局如何ヲ判斷スルニハ既往ノ成績ハ貴全權委員ノ知了セラル、カ如クニシテ日本ハ此ノ成績ヲ經歷シ來リ將來ノ成効如何ニ就テハ充分ナル信賴ヲ有シ居レリ故ニ此ノ際ニ當リ戰爭終局ノ談判ヲ爲スコトハ我ニ取リテハ一ノ犠牲ナリ而モ此ノ犠牲ヲ甘ンスルハ充分ニ人道及兩國真正ノ利益ヲ顧慮スルニ因ル

「ウヰッテ」氏 然ラハ貴説ノ如ク假ニ今後ノ戰局カ既往ノ如クニ進行スルモノトシテ判斷セハ如何日本カ今日迄擧ケ得タル成績ニ由リ考察スレハ十八箇月間ノ進歩ハ約八百哩ノ地歩ヲ進メタルニ止ル之ニヨリテ前途ヲ算シ愈貴國軍隊カ進ンテ我本國ニ入り來ルノ日ハ何レノ時ナルヘキヤ若シ愈露ノ本國ニ入り來ル場合アラハ其ノ時始メ

テ償金ノコト講和談判ノ問題ト爲ラン之ヲ要言スレハ償金ヲ支拂フハ戦争ニ全敗シタル國ノミ而シテ露國ハ決シテ全敗シタルニアラス

小村男 歴史ノ示ス所ハ貴全權委員ノ所論ノ如クナラス而シテ茲ニテ考究スヘキ問題ハ如何ナル地位ニ至ラハ償金ヲ支拂フヘキ必要アリヤ否ヤニアラスシテ双方極端迄戦争ヲ推行スル以前ニ平和ヲ結フノ途ヲ講スルコト利益ナリヤ否ヤノ點ニ在リ

「ウヰッテ」氏 本員ニシテ若シ露國カ全敗起ツ能ハサルニ至ルコトアルヘキヲ暫時タリトモ想像スルコトヲ得ハ今述べタル如クニハ答ヘサルヘシ假ニ日本軍連戦連勝ヲ重ネ聖彼得堡若クハ莫斯科ニ侵入シ來ルコトモアラハ其ノ時始メテ國民ハ償金ノ問題ニ上ル所以ヲ了解スヘク其ノ時ニハ貴說ニ應スルコトナラム

小村男 若シ實際上斯ノ如クナランニハ最早平和談判ナルモノアルコト無ク只自己ノ欲スル條件ヲ命令スルコトアラシノミ

「ウヰッテ」氏 爾カ云ハル、モ「ナポレオン」ノ如キ偉人ニシテ莫斯科迄侵入シ來リタレトモ其ノ曉平和條件ヲ命令シタルコトナク又爲シ得サリキ

小村男 「ナポレオン」ハ偉人ナルモ其ノ事業ニ於テハ只一個ノ人ナリ日本ノ戦争ニ臨メルハ一個人ニアラス全國民皆之ニ臨メリ

「ウヰッテ」氏 否「ナポレオン」ト雖其ノ背後ニハ全佛國民ヲ控ヘ他ニ同盟國ヲモ有シ居リタルヲ以テ其ノ事業タル一個人ノ事ニアラス

小村男 「ナポレオン」ハ如何ニ大人物ニシテ其ノ使役セシ人ハ如何ニ多數ナリシニモセ

0272

ヨ其ノ事業タル「ナポレオン」一個ノ大望ナリ故ニ佛國民其ノ背後ニ在リタリトテ其ノ後援ハ一時的ナリ日本ノ場合ハ之ト異ニシテ全國民ノ事業ナリ

「ウヰット」氏「ナポレオン」ノ事業トテモ一個人ノ大望ニアラス佛國人民全體ノ望ニシテ又彼若シ莫斯科ニ止マリ居タリシナランニハ全歐洲ヲ風靡スヘカリシナリ尙一言スヘキコトアリ日本全權委員ノ此ノ談判ニ蒞ミタル趣意ハ人道及日露兩國ノ真正ノ利益ノ爲メナリト云ハレタリ就テハ貴全權委員等ニ於テハ露國ハ如何ナル條件ヲモ受諾スヘシトノ意見ヲ持シテ此ノ地ニ來ラレタルニハアラサルヘシ然ルニ貴方ノ條件中ニハ眞實平和ノ爲メ又ハ人道ノ爲メト云ハンヨリ寧ロ此ノ機會ニ於テ露國ヲ犠牲トシテ日本國民ノ自利自益ヲ獲取セントノ目的ニ出タルモノアルヲ認ム

小村男 日本ハ戰爭ノ今日迄ノ經過ニ照ラシテ相當ナリト認ムル條件ヲ定メ而シテ双方ノ和協ニ依リ以テ平和ヲ成立セシメ得ヘシト信シ本員等ヲ此ノ地へ簡派セルナリ「ウヰット」氏 本員モ亦露國皇帝陛下ヨリ同様ノ訓令ヲ受ケ來レリ即チ和衷ノ精神ハ既ニ只今迄ニ充分其ノ實證ヲ與ヘタリト思考ス然ルニ日本ノ平和條件中本員等カ此地ニ來著スル以前ニハ知ルコト能ハサリシモノアリ是レ日本ハ今日迄之ヲ我方ニ知ラシメサリシニ由ル而シテ此等ノ條件中本員等ノ同意スルコト能ハサルモノアリ思フニ此ノ種ノ條件ハ平和締結ノ爲メニスルニアラスシテ露國ハ弱ナリトノ觀念ヨリ之ニ乗セントスルモノナラム

小村男 所謂其ノ種ノ條件トハ何ヤナリヤ

0273

「ウヰッテ」氏 ソハ我方ノ回答書中ニ説明シ置ケリ

小村男 否其ノ種ノ條件ノ何ヤナリヤハ貴方ノ回答ニテハ充分明ナラス何トナレハ該  
回答中明ナラザリシモノニシテ會見論究ノ結果知ルヲ得タルモノアレハナリ

「ウヰッテ」氏 我方ノ回答中ニハ明ニ認メ有リタリ尤モ此事ニ就テ此ノ上論スルハ効益  
ナシ一言ニシテ云ヘハ此ノ如キ條項四アリ此ノ中何レカ國家ノ威嚴及現在ノ狀態ニ  
照シテ受諾スルコト能ハサルヤハ回答書ニヨリ認ムルコトヲ得ルナラン

小村男 然レトモ今迄協議シタルモノ、中ニテ始メハ双方到底一致スルコト能ハサリ  
シモノモ協商ノ結果妥協ニ歸シタルモノアリ

「ローゼン」男 ソハ主義ニ於テ互ニ一致セルモ只細節ニ關シテ意見ヲ異ニシタルモノカ  
協定サレタル迄ノコトナリ

「ウヰッテ」氏 此等ノ諸點ニ於テ協定ヲ見タルハ何レモ皆日本ノ讓歩ニアラス露國ノ讓  
歩ニヨリテ妥協ニ歸シタルナリ本員ハ此ノ談判中讓歩シ得ヘキモノハ終極迄讓リテ  
協商ヲ遂クルコト、爲セリ然レトモ其ノ中ニハ露國ニ對シ命令セララル、カ如キモノ  
アリ今ヤ吾人ハ如何ニシテモ露國ニ於テ承諾スルコト能ハサル點ニ到著セリ是迄協  
定ノ成リタルハ談判ノ結果ニアラス日本ノ主張ニ對シ露國カ歩ヲ讓リタル結果ナリ

小村男 否是迄協定ノ成リタルハ其ノ本來ノ要求カ戰爭ノ結果既ニ既成ノ事實ト爲リ  
居リタルモノニシテ貴方ノ承諾ノ有無ニ拘ハラス現存セル事柄ニ過キス而モ我方ニ  
於テハ日露兩國ノ將來ニ鑑ミ貴方ニ於テ貴國ノ利益ヲ保存セララル、希望上正當ト認

0274



ヘキモノニ對シテハ躊躇ナク同意ヲ與ヘタリ即チ今日迄協定ニ歸シタル所ハ既ニ戰  
争ニ由リ收メ得タル結果ヲ確定シタルニ過キサルカ故ニ之ヲ以テ貴方ヨリノ讓歩ニ  
成レリトスルコトハ本員等ニ於テ之ヲ承認スルコト能ハス加之是迄議シタル個條中  
既ニ日本ノ遂成セル事實スラモ貴方ニ於テ之ニ對シ同意セラレサルモノアリ而シテ  
其ノ理由ヲ問ヘハ單ニ貴國ノ威嚴ニ關スト云ヒ其ノ他ノ個條モ較モスレハ國ノ威嚴  
ニ關ス云ヤトテ協商ヲ拒マル、モノアリ然ルニ所謂國ノ威嚴トハ果シテ如何ナルモ  
ノナルヤ凡ソ國トシテハ或時機ニ於テ犠牲ヲ爲サ、ルヘカラサルコトアリ是レ世界  
ノ平和ノ爲メ若クハ其ノ國家ノ隆盛ヲ計ル爲メ必要トスル所ニシテ如何ナル大國ニ  
於テモ犠牲ヲ爲スコトハ世界ノ平和ノ爲メ一國ノ更ニ大ナル利益ノ爲メニナスコト  
ニシテソガ果シテ自家ノ威嚴ヲ傷クルヤ否ヤハ自家一個ノ見ヲ以テ定メス世界ノ公  
評ニ依リテ判セサルヘカラスコトハ個人トシテモ國家トシテモ同様ニシテ他人カ如何  
ニ考フルヤハ別ニ考慮セサルヘカラス所謂威嚴云々ノコトモ他人ハ却テ之ヲ弱點ト  
ナスコトアルヘシ今日ノ問題トシテハ戰爭ノ結果此ノ範圍迄ハ犠牲ニ供シ以テ時局  
ヲ收メ平和ヲ回復スルヲ得ンニハソハ國家ノ威嚴ニ關セサルノミナラス却テ世界ノ  
平和ヲ維持スルノ好結果ヲ生スヘシ

「ウヰッテ氏 只今述ヘラレタル既成ノ事實ヲ認メス云々ノコトニ付一言スヘキコトア  
リ戰爭中遂行シタル事實ニ二様ノ性質アリ一ハ只事實上獲得シタルコト二ハ獲得シ  
タルモノヲ保持スルコト是ナリ此ノ二者ノ區別ハ歴史上其ノ例ニ乏シカラス貴全權

委員ハ既成ノ事實ト云ハル、モ所謂既成事實ニモ二箇ノ手續アリ即チ獲得スルコト、永遠ニ保持スルコトニシテ一旦獲得シタルモノハ必ス永遠ニ之ヲ保持スルト限ラズ永遠ニ保持スルニハ對手國カ正當ノ形式ニ由リ之ヲ認諾セムコトヲ要ス又所謂國家ノ威嚴ナルモノハ各人ノ見解ニ依ルモノニシテ第一ニ之ヲ判スルモノハ人民ナリ茲ニ所謂人民トハ他國人ヨリモ露國人ノ輿論ニ重キヲ置キテ云フナリ此ノ點ニ就テハ世界ノ判定ヲ顧ルヘシトノ貴説ハ本員モ亦同感ナリ今日ノ場合此處ニテ協定スルコトニ付日露兩國孰レカ正當ナリシヤハ世界之ヲ評セン貴全權委員ハ人道ニ鑑ミ正當ト認メタルモノヲ露國ニ要求スト云ハル、モ本員等ハ人道ニ鑑ミ露國ノ威嚴ト兩國戰爭ノ現狀トニ顧ミ露國ノ承諾スルコト能ハサルカ如キ條件ハ之ヲ提出セラレサランコトヲ希望ス

小村男 我全權委員ハ當初ヨリ述ヘタル如ク今回ノ講和條件ハ戰爭ノ結果ニ顧ミ決シテ過當ナラサルコトヲ充分ニ確信シテ之ヲ提出セリ若シ日露ノ位置顛倒シテ露國カ今日日本ノ立テル地位ニ在リシナランニハ其ノ日本ニ要求シ來ル所ノモノハ決シテ斯ル穩當ナルモノニハアラサリシナラン此ノ事ハ過去ノ歴史ニ徴シ十分ニ確信シテ疑ハサル所ナリ然ルニ日本ハ戰爭ニ關シ今日ノ如キ位置ニ在ルニ拘ハラス斯ル穩當ナル條件ヲ提出シタルハ日本カ今後戰爭ヲ繼續シ益優勝ノ地位ヲ占ムルコトニ顧ミス一ニハ人道ヲ重ンスルカ爲メ又一ニハ兩交戰國共ニ戰局ヲ飽迄繼續セシメテ極端ノ場合ニ達スル以前和局ヲ結フコトヲ必要ナリト認メタルカ故ナリ露國ニ此ノ上戰

0276

争繼續ノ準備アリト云ハル、ハ左モアラン日本ニモ亦無論此ノ上戦争ヲ繼續スルノ準備ハ充分アリ然レトモ今日ノ世界ハ兵力ノミノ競争ニアラス經濟力ノ競争盛ナルヲ以テ日露兩國カ兵力的競争ニ從事スル間ニ世界ノ經濟的競争ニ遅ル、ハ喋々ヲ俟タス故ニ兩國眞正ノ利益ニ顧ミルニ於テハ双方共極端ニ達スル以前兵力ノ戦争ヲ止メ世界ノ經濟的競争ノ爲メ盡カスルコトヲ緊要ナリトス

「ウヰッテ氏 第一ニ日本ノ提出條件カ果シテ穩當ナリヤ否ハ觀察ノ如何ニ依ルコトニシテ貴全權委員ハ之ヲ穩當ナリト云ハル、モ本員ハ爾カ認メス即チ今日迄ノ戦争ノ經過ニ照シ決シテ穩當ナリト認メス第二ニ假ニ日露其ノ位地ヲ顛倒シタル場合ヲ想像シ從來ノ歴史ニ顧ミ斯ル場合ニハ露國ノ條件ハ一層過大ナリシナラント云ハル、モ如何ナル歴史ナルヤ本員ハ之ヲ知ラス若シ露國ニシテ東京ニ侵入セハ其ノ條件ハ償金ノ如キモノヲモ含ムナラシ然レトモ露軍ノ東京ニ達スル前ニ平和談判開始セラレナハ其ノ條件ハ今回ノ如キ過重ナルモノニアラス償金ノコトハ問題トナラサラン日本モ戦捷ヲ繼續シテ歐露ニ來リ聖彼得堡ニ侵入スルカ少クトモ莫斯科ノ如キ歐露ノ大都府ニ入り來リナハ償金ノコト問題トナルハ理由アリト認メラレン第三兵力ノ戦争カ兩國ノ經濟上ニ有害ナリトノコトハ本員モ亦同感ナリ就テハ貴方ヨリ我方ヲ助ケテ苛重ナル條件ノ提出ヲ止メ以テ速ニ和局ヲ收メシメラレムコトヲ必要ナリト思考ス

小村男 數次云フ如ク今回ノ講和條件ハ戦争ノ結果ヨリ稽フレハ決シテ過當ニアラサ

ルコトハ本員等ノ確信スル所ナリ蓋シ條件ノ輕重ハ素ヨリ見解ノ如何ニ依ルコトナルカ我條件ノ過當ナラサルコトハ當事者タル日本ノミノ意見ニアラス世界ノ評論ニ照シ明ナリ故ニ若シ兵力ノ争ヲ止メ世界ノ經濟的競争ニカヲ轉スルヲ以テ兩國ノ利益ナリトセハ速ニ平和ヲ結ヒ經濟的競争ニカヲ注キ以テ自國經濟上ノ發達ヲ圖ルコト最モ得策ナルニアラスヤ抑モ世界ノ公論ニ於テ我主張ヲ過當ナリト認メ居ラサルコト即チ戦争ノ結果ニ徴スレハ決シテ過當ナラスト認メ居ルコトハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ貴全權委員ノ有シ居ラル、モノ、如キ消息ヲ有セス即チ如何ニシテ此ノ條件ヲ穩當ナリトスル世界ノ評論ナルモノヲ知り得ラレタルヤヲ解セス世界ノ輿論ハ一層公平ナルモノナルヘシ若シ然ラスシテ貴全權委員ノ云ハレタル如クナランニハ本員ハ其ノ輿論ハ不公平ノモノナルコトヲ悲ムモノナリ然レトモ實際ハ一層公平ニシテ決シテ貴全權委員ノ認メラレタル如キモノニハアラサルヘシ

小村男 先ニ述ヘラレタル貴見ニ據レハ條件ノ過當ナリヤ否ヤハ各人ノ見解ニ由ル即チ日本ハ之ヲ穩當ナリト確信シ貴方ハ之ヲ過當ナリト云ハル然ルニ日本ノ要求ノ穩當ナルハ獨リ日本ノミナラス世界ノ評論ニ於テ之ヲ認メ居ルコト諸般ノ報道ニ由リテ明ナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ吾人ノ購讀スル新聞紙カ同一ナラサルナラン本員ノ讀メル新聞紙ハ此ノ條件ヲ以テ過當ナリトセリ

小村男 世界ノ評論ノ如何ナルモノナリヤヲ確實ニ知ルノ方法ナキハ勿論ニシテ各人  
自ラ認メテ評論ナリト信スル所ノモノヲ事實ナリトスルノ外ナク本員ハ本員ノ信ス  
ル所ハ斯ノ如シト云ヒタルナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ反對ニ認メ居レリ

小村男 將々世界ノ評論カ本員ノ斷定シタル如キ批評ヲ下スハ當然ノ理由アリテ存ス  
即チ世界ハ日露兩國ノ政治上ノコトハ知ラス事實ニ現ハレタル戰爭ノ結果ハ著シク  
之ヲ認メ居レルヲ以テナリ且本員ノ知レル限ニテハ之ヲ世界ノ歴史ニ徵スルニ如何  
ナル戰爭ニ於テモ今日ノ如キ充分ノ結果ヲ生シタルコトハ之レナカラシ

「ウヰッテ」氏 貴説ノ如クニテハ吾人ノ閱讀スル新聞紙カ同一ナラサル如ク吾人ノ閱讀  
スル書籍モ亦異ナリタルモノナラン本員ハ斯ノ如キ場合ニ償金ノ如キ條件ヲ提出シ  
タル前例ハ之レナシト認ム

小村男 今ハ戰爭ヲ止ムルヤ否ヤノ大體論ナリ過刻來ノ如キ談緒ヲ開キタルハ双方ノ  
同意ヲ得ルコト能ハサルモノ即チ償金其ノ他ノコトニ就キ國ノ威嚴之ヲ許サストノ  
コトヲ論セラレタルカ故ニシテ要ハ大體ニ在リ吾人ハ歴史ヲ研究スルカ爲メニ來リ  
タルニアラサルヲ以テ只今ノ談ハ此處ニ止メ只如何ニシテ戰爭ヲ息ムヘキカノ方法  
ヲ議セント欲ス日本ハ素ヨリ露國ニ於テモ或方法ヲ以テ平和ヲ回復スルノ希望アル  
コト、信ス然ルニ爰ニ其ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナル或個條ニ付双方ノ意見根本  
的ニ異ナルモノナリ

「ウヰッテ」氏 其ノ點ハ一ニアラス數點アリ

小村男 此ノ根本的ニ相違セル意見ヲ調和スルノ途アリヤ否ヤ是レ吾人ノ研究スヘキ問題ナリ就テハ第九條ニ關シ我方ヨリ提出シタル覺書ニ對シテ回答ヲ與ヘラル、トノコトナラハ其ノ回答ヲ受領シ閱讀セム又第十條及十一條ニ關シテモ我方ノ意見ヲ認メタル短文ノ覺書ヲ作り置キタレハ之ヲ提出シテ考究ヲ請フヘシ之ニ對シテモ同シク書面ヲ以テ回答セラルヘキカ

「ウヰッテ」氏 差當リ第九條ハ如何ニスヘキカ

小村男 双方同意ニ到達シ得サルコトヲ認メルコト、スルノ外ナカラシ

「ウヰッテ」氏 然ラハ貴說ノ如クスヘシ

(コレヨリ左ノ新聞通知案ヲ決定シ午後零時五十分休憩)

### 新聞通知案

八月十七日午前講和會議ハ第九條ヲ討議シタルモ双方全權委員ノ合意ヲ得ル能ハサリシヲ以テ全權委員ハ意見ノ相違ヲ認メ午後三時迄休會セリ(原文ハ附屬書第三號)

(午後三時五分再ヒ開會)

小村男 コレヨリ第十條ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 今朝約束シタル第九條ニ對スル回答ヲ作り置キタレハ之ヲ貴方ヘ交付ス

へシ(トテ左ノ覺書ヲ提出ス)

露西亞國全權委員ハ日本國ニ向ヒ軍費ヲ拂戻スコトニ關スル箇條ニ付日本國全權委員ヨリ交付セラレタル覺書ニ對シ慎重ナル考量ヲ加ヘ日本國全權委員カ該要求ヲ提出スルニ當リ毫モ露國ニ向ヒ大國ノ威嚴ト相容レサル提議ヲ爲スノ意思ナカリシコトノ聲明ヲ領シ茲ニ満足ノ意ヲ表ス

然レトモ露西亞國全權委員ハ戰爭ヲ終止スルヲ得ヘキ妥協ヲ爲サムトスル最モ誠實ナル希望ヲ懷クニ拘ハラズ露國ニ於テ苟モ其ノ敵國ニ對シ彼カ軍事上如何ナル大成効ヲ博シ得タリトスルモ軍費拂戻ヲ約束スヘキ講和條約ニハ到底署名スル能ハサル旨ヲ明截ニ聲明スルノ已ムヲ得サルヲ感ス

抑モ露國ハ今日ニ至ル迄軍事上幸運ニ際會セスト雖未タ戰勝國ノ意思ニ屈服スヘキ戰敗國ノ地位ニ陥リタルモノニ非サルカ故ニ之ニ對シ軍費拂戻ヲ請求スルカ如キハ之ヲ國際關係ノ歴史ニ照スモ又之ヲ衡平ノ原理ニ律スルモ到底正當ナリト云フヲ得サルヘシ

前陳ノ理由ニ依リ如上ノ處理ニ適應セシメムカ爲メ用フヘキ形式並拂戻金額ノ整定ニ關スル講究ハ無益ニ屬スルモノナリトス(原文ハ附屬書第四號)

小村男 第十條ニ付一ノ覺書ヲ作り置キタレハ一覽セラレタシ(トテ左ノ覺書ヲウ井ッテ氏ニ手交ス)

第十、日本國全權委員ニ於テ本件要求ヲ提出シタルハ該要求ノ承諾セラレタル場

合ニ日本國ニ移屬スヘキ物質的利益ニ基クヨリハ寧ロ其ノ國際法ノ原則ニ適合  
スルヲ確信シタルニ基クモノナリ本件要求ニ對シ國際關係上適切ナル先例ノ之  
ヲ支持スヘキモノナキハ疑ナキ事實ナリト雖是レ古來未ダ曾テ交戰國ノ軍艦カ  
戰鬪ノ結果ニヨリ中立港灣ニ避難シ抑留セラレタルノ事實ナキニ基因スルモノ  
ナリ若シ本件軍艦ニシテ長期ノ避難ヲ許容セラレザリシナラニハ其ノ大部分  
ハ遂ニ日本軍ノ手ニ落ちタリシナルヘシ交戰國軍艦ノ中立國港内ニ避難シ以テ  
戰鬪ノ結果ヲ逃ル、コトハ正義ノ原則ト相容ル、モノト見ルヲ得ス又國際義務  
ノ遂行ニ關シテハ何等國家ノ威嚴ナル問題ノ存スヘキ理ナシ而シテ日本國全權  
委員ノ要求スル所ハ單ニ戰鬪中損害ヲ被リタル艦船ニノミ關スルモノナリ依テ  
日本國全權委員ハ該要求ヲ維持スルノ正當ナルヲ信ス(原文英文及佛譯文ハ附屬  
書第五號及第六號)

此ノ條件ニ付説明スヘキコトアリ日本カ此條件ヲ出シタルハ固ヨリ公法上ニ於テ  
正當ノ理由アリト信スルモ尙其ノ他ニ特別ノ事情アリ此ノ軍艦引渡ノコトハ主ト  
シテ清國領海ニ在ルモノヲ目的トスルモノニシテ清國ハ開戰當初ヨリ中立ヲ宣言  
シタルモ之ヲ實行スルノ能力ナク戰鬪ノ結果露國ノ軍艦清國港灣ニ進入シタル場  
合ニ清國ノ自力ヲ以テ之カ武装解除ヲ實行セシメタルモノ一モ之レアルナク皆日  
本艦隊ノ威壓ヲ受ケテ之ヲ行ヒタルナリ若シ此ノ問題ニシテ單ニ日清兩國ノ關係  
ナリシナラニハ日本艦隊ハ清國ノ港灣ニ進入シテ適當ノ處置ヲ執ルヘカリシモ

0282



上海ノ如キハ列國ノ利益關係存在スルヲ以テ之ヲ害セサランカ爲メ姑ク交戰國權利ノ執行ヲ差控ヘタル次第ナリ此等ノ露國軍艦ハ前ニモ述ヘタル如ク日本ノ力ニ由リテ武装ヲ解除セシメタルナリ當時日本艦隊カ之ヲ撃破若クハ捕獲セサリシハ日本ノ當然行ヒ得ヘキ交戰權ノ實行ヲ停止シタル結果ナリ斯ノ如キ事情ノ下ニ在ル軍艦ナルカ故ニ日本ニ於テ其ノ引渡ヲ要求スルハ當然ノコトニシテ即チ日本カ此ノ條件ヲ提出シタルハ主トシテ清國領海内ニ抑留セラレ在ル軍艦ノ始末ニ重キヲ置クヨリ來リタルコトナレハ右ノ事情ヲ了解セラレタシ

「ウヰッテ」氏 清國カ中立ヲ維持スルノカナカリシトノ貴説ハ全ク同意ナリソハ事實ノ證スル所ニシテ即チ日本軍中ニ多數ノ清國人アリシコト其ノ明證ナリ

小村男 日本軍中ニ清國人有リ等ノ説ハ露國新聞紙等ニ誤リ傳ヘタルコトアリト聞ク我邦ニテハ却テ露軍中ニ多數ノ清國人アリトノ説ヲ傳ヘ居レリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ如何ナル事情アリトモ中立國ノ港灣ニ抑留セラレタル軍艦ヲ敵國ニ交付スル理由ヲ解スルコト能ハス陸兵ノ一團カ中立國ノ領土内ニ竄入シ又ハ軍艦數隻カ中立國ノ港灣ニ入りタリトテ其ノ公法上ヨリ來ル唯一ノ結果ハ武装ヲ解除シテ戰爭期間中同處ニ留置スルニ止リ決シテ此等軍隊又ハ軍艦カ對手國ニ捕拿セラルルノ理由ヲ發見スルコト能ハス

小村男 交戰國一方ノ軍艦カ戰鬪ノ結果中立港灣ニ入り自ラ進ンテ若クハ當該地方官ノ命令ニ依リテ武装解除ヲ行ヒタル場合ト交戰國他方ノ海軍力ノ威壓ニヨリテ之ヲ

實行セシメタル場合トハ其ノ間大ナル差違アリ中立國カ其ノ中立ヲ維持スル能力ナキ爲メ交戰國ノ軍艦ニ對シテ中立ノ規定ヲ實行スルコト能ハサル場合ニ他ノ交戰國カ不得已海軍ノ威壓ヲ加ヘサルヘカラサルハ當然ノ結果ニシテ上海ニ竄入シタル露國軍艦ノ如キハ清國ノ中立規則ニ於テ廿四時間以内ニ出港スルカ又ハ武装解除ヲ行フカノ進退ヲ決セサルヘカラサリシニ拘ハラス早クモ三週間遅キハ五週間何等ノ處決ヲモ爲サス其ノ極漸クニシテ武装解除ヲ爲シタルハ日本カ交戰國ノ權利ヲ以テ該港ニ進入シ適當ノ處置ヲ爲スコトニ決心シタルヲ以テ始メテ行ハレタルナリ其ノ際日本ハ當然交戰國ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカリシハ勿論ナルモ清國港灣ニハ列國ノ利益關係アリ之ヲ損センコトハ日本ノ欲スル所ニアラサルヲ以テ可成列國ノ利益ニ損害ヲ與フルコトヲ避ケンカ爲メ實力ヲ以テ自家當然ノ權利ヲ實行スルコトヲ見合セ置キ其ノ權利ノ爲メニハ穩當ノ手段卽チ談判ノ結果ニヨリテ軍艦ヲ引取り以テ無事ニ結局セシメントノ覺悟ヲ定メタルナリ是レ今回此ノ條件ヲ提出シタル緣由ナリトス

「ウヰッテ」氏 本員ノ意見ニテハ縱令其ノ間如何ナル事情アリシトスルモ公法ハ公法トシテ動カスヘカラス露艦ノ武装解除カ如何ナル理由ニ依リ行ハレタルニモセヨ又其ノ方法及解除ノ期日カ如何ニ異ナリタルニモセヨ結果ハ同一ナリト思考ス第一ニ貴全權委員ノ云ハル、如キ事情ヲ論スルノ必要アリトセハソハ本員等ノ未タ知ラサル事ナルヲ以テ事實ヲ調査スル爲メ特別ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス然レトモ二十四時

間又ハ四十八時間云々ノ如キ規則カ實行セラレサリシトテ之カ爲メ公法上ヨリ來ル當然ノ結果ハ變化セス武裝解除ヲ行ヒタルモノハ其ノ所屬ハ本來ノ所有者ナルコト動カスヘカラス又日本海軍ノ威壓トハ如何ナルモノナリヤソハ港内ニ在ル軍艦カ出テ來リナハ之ヲ破壊ストノコトナラン其レ以上ニ如何ナルコトヲ行ヒ得ルカ日本艦隊カ中立港ニ進入スルノ權利アリトハ重大ナルコトナリ本員ハ之ヲ信セス日本艦隊カ上海ニ入ラサリシハ他國ノ利益ヲ重スルニハアラスシテ他國トノ葛藤ノ危險ヲ冒スニアラサレハ行フコト能ハサリシカ爲メナラン

小村男 今之ヲ項ニ分チテ論スヘシ第一ニ抑留軍艦ハ本來ノ所有主ニ還ルコト當然ナリト云ハル、モ此ノ場合ハ事情ヲ異ニシ日本ニ於テ當然其ノ引渡ヲ受クヘキ理由アリ第二、一旦清國ノ港灣ニ入りタルトキハ日本艦隊ハ其ノ港灣ニ進入シテ攻撃ヲ加フル能ハストテ所謂日本艦隊ノ威壓ナルモノハ如何ナルモノナリヤト問ハレタルカ元來中立國ニシテ其ノ中立ヲ實行スルノ力ナキ場合ニ交戰國ハ其ノ權利トシテ中立港内ノ敵艦ヲ攻撃シタルハ國際上今日迄其ノ例アルコトニシテ交戰國ニ此ノ權利アルハ疑ナキ所ナリ第三實際ノ事實ニ於テ露艦ノ武裝解除タルヤ上海入港ノ後清國中立規則ニ二十四時間以内ニ武裝解除又ハ出港ノ明定アリ且地方官ヨリ頻ニ迫リタルニ拘ハラス彼等軍艦ハ數週間ニ至リテ何等ノ處分ヲモ爲サス日本艦隊カ港口ニ入ルニ至リ始メテ武裝解除ヲ行ヒタルモノニシテ何レノ場合ニ於テモ皆然ラサルナシ是レ即チ港灣内ニ於テ攻撃セラル、コトヲ避ケンカ爲メニシテ而シテ日本艦隊ハ露艦カ

武装解除ヲ行ヒタル爲メ交戦國ノ權利ヲ實行スルコトヲ見合セタルナリ第四此ノ交戦權ノ實行ヲ見合セタルハ列國ト衝突ノ危険ヲ冒スコトヲ避ケンカ爲メナリシトノコトニ就テハ日本ハ開戦ノ當初列國ニ向テ清國ト列國トノ貿易上ノ利益ニ害ヲ及ホスカ如キ處置ハ出來得ル限り之ヲ避ケ戦争ノ結果列國貿易上不利ナル影響ヲ及ホサハランコトヲ勉ムトノ趣意ヲ宣言シ置キタルヲ以テ此ノ宣言ノ趣旨ニ基キ清國港灣ニ於テ當然自ラ行ヒ得ヘキ交戦權ノ行使ヲ見合セタルナリ

「ウヰッテ」氏 日本全權委員ハ和協ノ精神ヲ以テ來ラレタル趣ナルカ此ノ條件ハ非常ニ人心ヲ激昂セシムルモノナルヲ以テ此ノ點ニ關シテハ再考セラル、ナラント思料シ居リタルカソハ誤ナリキ今ヤ本員等ハ此ノ事ニツキ到底同意スルコト能ハサルヲ以テ其ノ旨ヲ認メテ次項ニ移ラン乎貴意如何

小村男 露國全權委員ニ於テハ今回ノ抑留艦引渡ノコトハ普通ノ場合ト異ナルコトヲ認メ日本ヨリ此ノ條件ノ正當ナルコトヲ考ヘ必ス同意セラル、ナラント信シ居リタリ然ルニ單ニ露國ノ威嚴ニ關スルトノ一點ニ固執セラレ何等調和ノ途立タサルハ遺憾ノ至ナリ此ノ上議論ヲ繼續スルモ双方ノ一致ヲ見ルコト困難ナルハ同感ナルヲ以テ先例ニ遵ヒ其ノ旨ヲ認メテ次項ニ移ルコト、セム

扱次ハ第十一條ナリ此ノ條ニ關スル露國全權委員ノ最初ノ回答中露國ハ近キ將來ニ於テ東洋ニ著大ナル海軍力ヲ有スルノ考ヲ起サ、ルヘシ云々ノ宣言アリ此ノ宣言ハ素ヨリ日本ノ提出シタル條件ト矛盾セス即チ主義ニ於テ我提出ノ條件ニ關聯セル宣

言ナルカ故ニ満足ヲ以テ之ヲ迎ヘム然レトモ日本カ此ノ條件ヲ提出シタルハ帝國將來ノ安全ヲ圖ルカ爲メニシテ極メテ重大ノ點ナレハ斯ル漠然タル宣言ヲ以テ満足スルコトヲ得ス故ニ若シ露國ニ於テ果シテ東洋ニ於テ優勢ノ海軍力ヲ維持スルノ意思ナシトセハ之ヲ條約上ノ約務トシテ規定シ置キ又近キ將來ニ於テ著大ナル勢力云々ノ如キ程度ノ漠然タルコトハ將來紛議ヲ起ス基ナルヲ以テ此ノ程度ヲモ明ニ爲シ置キタシ

ウヰッテ氏 右様ノ書方ナラハ條約ヲ以テスルモ可ナラント思考スルカ第一貴全權委員ハ著大ナル勢力トハ漠然ナリト云ハル、モ然ラハ如何ナル文字ヲ以テ適當ト爲スヘキカ本員ハ之ヲ求ムルモ發見スルヲ得ス又此ノ字句ノ儘ニ爲シ置クモ書面ニ著大ナルト書キタル以上兩國ノ交情親密ト爲リ互ニ相信スルニ至テハ是ニテ目的ハ達セラレシ一定ノ數ヲ定ムルハ甚タ困難ナリ勢力ノ著大ナルヤ否ヤハ時ニヨリ大ニ異ナリ去年ハ其ノ噸數ヲ以テ一勢力ノ價アリトセル海軍力モ今年ハ同噸數ニテハ毫モ價ナキモノトナル時勢ナレハナリ

扱是ヨリ此ノ點並ニ此迄議シタル點ニ就キ一言セントス本員等ハ眞實且永續ノ平和ヲ結ハンカ爲メニ來リタリ何トナレハ若シ眞實永續ノ平和ニアラスンハ單ニ將來ノ紛議ヲ招クノミニシテ平和ヲ爲スノ要ナキノミナラス寧ロ戰爭ヲ繼續スルヲ優レリトスレハナリ爰ニ本員カ無遠慮ノ言ヲ爲スヲ宥サレヨ總テ此ノ談判中本員ノ察スル所ニ依レハ貴全權委員ニハ露國ハ現狀ノ下ニ於テ平和ヲ欲スルモ日本ト衝突ヲ惹起

スナラントノ考慮ヲ有セラル、カ如シ本員ハ能ク之ヲ了解ス貴全權委員カ此ノ感想ヲ有セラル、ニハ理由アルコトヲ認ム然レトモ若シ過去ニ於テ懷カレタル感想カ將來ニ於テモ懷カサルヘカラサルモノナリトセハ今日平和ヲ爲スノ要ハ何レニ在リヤ平和カ大ナル價ヲ有スルハ甲處ハ彼ノ勢力ニ委シ乙處ハ我勢力ノ下ニ置クト定メ互ニ他ノ利益ヲ尊重シ他方ニ損害ヲ與ヘサルコトヲ覺悟スルニ在リ兩國今ヤ隣接ノ國トナリ双方孰レモ他ヲ尊重セサルトキハ互ニ存立スルコトヲ得ス日露兩國人共ニ互ニ他ノ利益ヲ尊重スルノミナラス一步ヲ進メテ將來ハ互ニ補助セントノ點迄此ノ關係ヲ進捗セシメント欲スコハ予及ヒ予ノ同僚多數者——是ハ重要ノ地位ニ在ル官吏ヲイフコトナルカ此等ハ皆皇帝陛下ノ從僕ニ過キサレトモ——即チ總テノ政治家及皇帝陛下モ同意見ナリ若シ吾人ニシテ互ニ他ノ利益ヲ尊重セス又互ニ他ヲ援助スルコトナシトセハ假令紙上ノ條約ヲ設ケタリトテ平和ハ一時形象ヲ呈スルノミニシテ近キ將來ニ於テ再ヒ戰爭ヲ爲スノ形勢トナラシコハ一般ノ事ナルカ第十一條ニツキ此ノ思想ヲ以テ此ノ個條ヲ考察センニ自ラ尊重シ又他ヲ尊重シテ親密ノ關係ヲ結ハントスルニ當リ條約ヲ以テ或地方ニ於ケル海軍力ニ制限ヲ置カントシ之ニ對シテ我方ヨリ或宣言ヲ爲サントスルヲ日本ニ於テ不充分ナリトシ其ノ實行如何ヲ疑ハレナハ是レ互ニ信セサル空文ニ過キササルヲ以テ假令海軍力ノ數ヲ限リテ掲記スルモ信用ナクンハ其ノ結果ハ一樣ナラン又實ニ事實上ヨリ語ランニ本員ハ敢テ憶スル所ナク云ハン露國ハ今ヤ海軍ヲ有セス斯ク公言シタリトテ國辱ナリト思考スル程露國ハ小

ナルモノニアラス之カ爲メ毫モ露國ノ偉大ナルコトヲ損スル所ナシ擬露國ノ海軍ハ如何ニスヘキヤ之ニ就テハ東洋ノ外尙多クノ大問題アリ亞細亞ノ西南、黑海、バルチック海等歐洲ノ此ノ方面ニ於テ極東ニ於ケルヨリモ重大ナル問題ヲ有ス故ニ露國ハ今後三箇ノ艦隊即チバルチック海、黑海及極東艦隊ヲ有セサルヘカラス然ルニ今日ノ狀態ニ於テ日本海軍ノ如キ優勢ナル海軍力ヲ有スル國ト爲ルコトハ容易ニナスコト能ハサルナリ況ンヤ貴國ハ我軍艦ヲ捕獲セラレ又現ニ優勢ナル軍艦ヲ注文セラレ且今後益注文セラル、コトナランニ於テオヤ本員ハ又云ハントス能ク事實ヲ觀察スル人ハ今貴方ヨリ要求セラル、事ハ特ニ約束ナクトモ其ノ如ク成リ行クヘキヲ知り又我方ヨリ宣言ヲ爲シタル以上我ハ必ス眞實ニ其ノ如ク爲スヘキハ何人モ首肯スル所ナラン何トナレハ我ハ其ノ如ク爲スヨリ外ニ爲スヘキノ途ナケレハナリ本員ハ又附言センニ實際「バルチック海、黑海及極東ニ有力ノ艦隊ヲ有スルコトハ露國ニ取リテ爲シ得ヘカラサル所ナルカ假ニ之ヲ爲シ得ヘシトセハ如何ニ本問題ハ解決セララルヘキ乎抑モ極東艦隊ノ位置タル總テノ海峽貴國ノ支配ニ屬スル下ニ在リテ如何ナル事ヲ爲シ得ヘキカ此等ノ事情ヲ考察セラレンニハ本員ノ宣言ノ行ハル、ヤ否ヤニ就キ疑念ヲ懷カル、コト之レ無カラント信ス

小村男 只今貴全權委員ノ述ヘラレタル所ハ大要二個ニ分ル一ハ日露兩國將來ノ關係ニシテ一ハ目下ノ議題ニ關スル貴見ナリ此ノ第一點即チ假令講和條約成立スルモ將來日露兩國各他ノ一方ノ利益ヲ犯サルノ意思ナキトキハ紙上ノ條約ハ如何ナリト

モ永遠ニ確實ノ平和ヲ結フコト能ハスト云ハレタル點ニ付テハ本員モ全然同感ナリ  
日露兩國間ニ誠實且密接ナル關係ヲ維持シテ互ニ双方ノ利益ヲ尊重シ互ニ双方將來  
ノ運命ヲ認メ共ニ國家永遠ノ繁榮ヲ謀ルヘシトハ我政府及國民ノ從來抱持セル意見  
ニシテ此ノ希望ヲ達スル爲メ是迄日本ハ非常ニ力ヲ盡シ而シテ其ノ盡力ノ衝ニ當リ  
タルハ本員ナリ即チ千八百九十六年韓國ニ關スル日露協商ハ本員自ラ韓國ニ在リテ  
之ヲ結ヒタルモノニシテ是レ日露兩國間ニ永ク誠實親密ナル關係ヲ保チ兩國各其ノ  
運命ニ從ヒ其ノ希望ヲ達シ又其ノ相互ノ利益ヲ尊重スルコトノ關係ヲ結ハントセル  
發軔ナリ其ノ後露都駐劄公使タルノ命ヲ奉シ在任僅ニ半歲ナリシモ其ノ間ニ在リテ  
從來ノ素志ヲ達セントノ希望ヲ以テ日露協商問題ヲ本員ヨリラムスドルフ伯ニ提出  
シタルコトアリ又滿洲及韓國ニ於ケル露國ノ行動ニヨリ或ハ日露兩國ノ關係危險ニ  
陥ラントスルニ際シ出來得ヘクシハ素志ノ如キ協商ヲ以テ時局ヲ解決セント欲シ盡  
力シタルモ本員ナリ其ノ間露國ニ於テハ協商ノ趣意ニ贊同セラレタルニ拘ハラズ事  
實ニ於テハ之レト齟齬シタルコト續々生シ來リタルヲ實驗セリ本員ノ素望ハ只今簡  
單ニ述ヘタル通りナルヲ以テ將來尙一層此ノ意思ヲ鞏固ナラシムルハ自然ノ成行ナ  
リト諒セラレタシ次ニ第二ノ本案ニ就テノ事實問題ハ貴説ノ如ク露國カ三方面ニ於  
テ優勢ノ海軍力ヲ維持スルコトハ容易ナラス又バルチック海ニモ黑海ニモ相當ノ海  
軍力ヲ有スルコトモ各其ノ理由アルコトハ本員亦之ヲ認ム然レトモ過去ノ事實ニ於  
テ露國ハ滿洲經營ノ計畫ヲ立テシヨリ以來黑海及バルチック海ニ優勢ノ海軍力ヲ有

0290



スルノ必要アルニ拘ハラズ海軍主力ノ殆ト全部ヲ東洋ニ派シ即チ日本艦隊ニ對シ優勢ヲ維持スヘク軍艦ヲ派遣セラレタリ故ニ將來ニ於テモ露國ノ東洋ニ於ケル海軍力ノ増減ハ其ノ政策ノ如何ニ依リ定メラル、コト、ナラン隨テ今此ノ事ニ就キ日露兩國間ニ充分ノ協調成ラシニハ始メテ安全ニシテウヰヰテ氏一己ノ意見ヲ以テ満足スルコト能ハス蓋シ此ノ事タル政略ニヨリ變化ヲ受クルモノニシテ而シテ政略ハ人ニヨリ又時ニヨリ種々異ナルモノナレハナリ故ニ日露間ニ於テ將來ニ誠實親密ノ關係ヲ維持スル爲メ協調ヲ爲スコトハ先刻述ヘタル本員ノ素志ト吻合セリト雖此際平和ヲ結ハンカ爲メニハ該協調ノ有無ニ拘ハラズ日本帝國ノ安全ヲ保ツモノナラサルヘカラス

「ウヰヰテ氏 貴説ノ如ク往年意見ノ交換ハ少カラス之ヲ行ヒタルカ今ハ本問題ヲ決セシ我方ニ於テハ極東海軍ニ關シ日本ノ威壓ニ由リテ束縛ヲ受クルコトヲ諾スルコト能ハス此ノ點ニ付テハ本員モ「ローゼン」男モ共ニ意見ヲ變更スルコト能ハス故ニ當初日本ヨリ提出セラレタル案ノ如クナラハ只否ト答フルノ外ナシ然レトモ我提案ノ宣言ハ本員等一己ノ資格ヲ以テスルニ非スシテ皇帝陛下ノ代表者トシテ之ヲ爲サントス即チ最初ヨリ本員ノ陳ヘタル趣旨ヲ認メ公然ノ宣言書ト爲サン貴方ニ於テ之ニ同意ナラハ決定セン然レトモ若シ不同意ナラハ互ニ意見ノ一致セサルコトヲ認メ置クコト、ナスノ外ナカラン

小村男 其ノ宣言ハ條約ト等シク公布セラレテ可ナルモノナリヤ

「ウヰッテ氏 然リ

小村男 帝國政府カ此ノ條件ヲ提出シタルハ全ク將來ニ對シテ帝國ノ安全ヲ謀リ且出來得ル限リ誤解ヲ避ケントノ希望ニ基クヲ以テ若シ文章ノ解釋如何ニ依リ誤解ヲ生スルカ如キコトアラハ我本意ニ非ス故ニ本員等ニ於テ貴方ノ提議ニ同意スルト假定セハ其ノ文章タル誤解ノ恐ナキモノニアラサレハ承諾スルコト能ハス

「ウヰッテ氏 我宣言案ハ貴方ノ手ニ在リ該案ハ貴方ノ希望ニ合シ又日本國民カ將來露國ヨリ侵略ヲ受クルノ恐ヲ除キ置カントノ希望ニモ適セン若シ該案ニシテ貴意ニ適セスンハ如何ニ之ヲ認ムヘキ乎

小村男 形式ノ如何ハ強テ問ハサルモ意義ニ誤解ノ虞アリテハ不可ナリ

「ウヰッテ氏 此ノ宣言ハ條約附屬文書トシテ條約ニ附セム

小村男 屢陳フル如ク該宣言ハ將來誤解ノ生シ易キ書方ニテハ却テ紛議ノ基トナルヲ以テ露國政府ノ趣意ヲ明白ニ爲シ置カサルヘカラス貴案ノ如キ書方ニテハ誤解ヲ生スルノ恐アルニ付別案ヲ提出セラレンコトヲ希望ス

「ウヰッテ氏 我方ニテハ此ノ書方ニテ充分明白ナリト認ムルヲ以テ別案ヲ提出スルコト能ハス若シ貴方ニ考案アラハ提出セラレタシ左スレハソレニ付考究スヘシ

小村男 然ラハ我方ヨリ提議セン乎

「ウヰッテ氏 吾人ハ最早剩ス處僅ニ十一條及十二條ノミニシテ而シテ十一條ハ既ニ討議ヲ了シ只決定如何ノ問題アルノミ本員ハ之ヲ宣言書ト爲サントス就テハ斯クスル

コトニ決定シ而シテ其ノ文章ハ我提案ノ如クスルヤ又ハ別案ヲ提出セラル、ヤハ貴方ニ於テ決セラル、コト、シ其ノ確定ハ明朝ニ延ハスコト、ナサム

小村男 元來我方ニテハ條約ニ記入スルコトヲ希望シ宣言書トナスノ考ハ之ヲ有セザリシ貴案ニ付テハ先ツ實質ニ於テ二箇ノ不可ナル點アリ然レトモ只今貴全權委員ノ述ヘラレタル如ク尙我方ニ於テモ研究ヲ加ヘ果シテ貴案ニ同意シ得ルヤ否ヤ又他ニ相當ノ案アリヤ否ヤヲ決セム

「ウ井ッテ」氏 二ヶノ不可ナル點トハ如何

小村男 一ハ近キ將來ニ於テ露國カ極東海面ニ著大ノ海軍力ヲ有セストノコトハ事實ニ外ナラスシテ宣言ヲ要セサルヘシニハ近キ將來ト云ヒ又ハ著大ト云ヒ共ニ程度問題ニシテ意義甚タ漠然タルヲ以テ却テ紛議ヲ起スノ因ナリ

「ウ井ッテ」氏 然レトモ之ヲ判然書キ表スコトヲ得ルヤ免ニ角明朝承ラム  
小村男 承知セリ左様取計ハム

「ウ井ッテ」氏 扱最早此ノ後ニハ十二條ノ一ヲ餘スノミニシテ是ハ明日早々議了セム其ノ上ニテ今一回會合ヲ開カム然ルニ今迄ノ會議錄調製遲滯セルヲ以テ明後土曜日ハ休會トシ其ノ翌日曜日ハ土地ノ習慣ニヨリ休會ヲ可トセン此ノ兩日ヲ書記官等ノ會議錄調製ニ充テ月曜日午後三時ニ開會シ是ヲ以テ最終ノ會見ト爲サム

小村男 諾

(コレヨリ左ノ新聞通知文ヲ決定シ右ニテ散會時ニ午後六時三十分)

(新聞通知文)

八月十七日午後講和會議ハ第十條及第十一條ヲ討議セリ第十條ニ關シテハ双方意見ノ相違アリテ合致スルヲ得ス又第十一條ニ關シテハ更ニ討議ヲ爲スコトトシ明  
十八日迄休會セリ(原文ハ附屬書第七號)

第一號

9. The Plenipotentiaries of Japan have given their most serious consideration to the observation of the Plenipotentiaries of Russia on the subject of this Article. They are unable to share the conclusions which the Plenipotentiaries of Russia would draw from the admission of the claim of Japan under this head. In such an admission there could exist no inference that Russia was no longer able to continue the struggle. The Plenipotentiaries of Japan have no intention to claim any terms that will be humiliating to Russia as that would not consist with a just sense of the dignity of a great Power, and they believe that the whole civilized world would find, in the admission of the principle of reimbursement in the actual circumstances of the case, nothing more than the recognition of the historical fact that up to this time the arms of Japan have been successful. The claim of Japan contains nothing of an indirect or consequential nature. It is strictly limited to the actual direct expenses of the war and to that extent the Imperial Government of Japan firmly believe that they are justly entitled to reimbursement. The Plenipotentiaries of Japan accordingly do not find it possible to abandon the claim. They are nevertheless prepared to approach the question of the formula to be used as well as the adjustment of the amount to be reimbursed in the spirit of conciliation and accommodation and they feel compelled to earnestly urge the Plenipotentiaries of Russia to reconsider the question in the light of these remarks.

第二號

(Traduction)

9. Les Plénipotentiaires du Japon ont donné leur plus sérieuse considération aux observations de Leurs Excellences les Plénipotentiaires de Russie au sujet de cet Article. Ils sont dans l'impossibilité de partager les conclusions que les Plénipotentiaires de Russie voudraient tirer de l'admission de la réclamation du Japon dont il s'agit. Dans une pareille admission, il ne pourrait exister aucune déduction que la Russie ne pût plus continuer la lutte. Les Plénipotentiaires du Japon n'ont aucune intention de réclamer des conditions quelconques qui seraient humiliantes à la Russie ou qui ne seraient pas compatibles avec le sens juste de la dignité d'une grande Puissance, et ils croient que le monde civilisé entier ne trouverait, dans l'admission du principe de remboursement, dans les circonstances réelles du cas présent, que la reconnaissance du fait historique que jusqu'ici les armes japonaises ont été toujours couronnées du succès. La réclamation du Japon ne contient rien qui soit d'une nature indirecte ou de conséquences. Elle est strictement limitée aux dépenses réelles

directes de la guerre et jusqu'à cette limite le Gouvernement Impérial du Japon est fermement convaincu qu'il a le juste titre au remboursement. Les Plénipotentiaires du Japon ne jugent donc pas possible d'abandonner cette réclamation. Ils sont toutefois prêts à traiter la question de forme à adopter ainsi que l'ajustement du montant à rembourser, dans un esprit de conciliation et de convenance, et ils se voient forcés d'insister ardemment pour que les Plénipotentiaires de Russie reconsidérassent la question sous le jour de ces remarques.

---

### 第三號

In the morning sitting of August 17th, the Conference has discussed the Article IX. Not being able to arrive at an agreement, the Plenipotentiaries have decided to take note of the divergency of views, and the Conference adjourned to three o'clock in the afternoon.

---

### 第四號

Les Plénipotentiaires de Russie ont pris en sérieuse considération la note que L. L. E. E. les Plénipotentiaires du Japon ont bien voulu leur remettre relativement à l'Article concernant le remboursement au Japon des frais de la guerre. Ils prennent acte avec satisfaction de la déclaration de Messieurs les Plénipotentiaires du Japon qu'en mettant en avant cette demande, il n'entraîne en aucune façon dans leur intention de faire à la Russie une proposition incompatible avec la dignité d'une grande Puissance.

Toutefois, malgré leur désir le plus sincère d'arriver à une entente qui puisse mettre fin à la guerre les Plénipotentiaires de Russie se voient obligés de déclarer d'une manière catégorique que la Russie ne saurait signer un traité de paix en vertu duquel elle s'engagerait à rembourser à un adversaire, même favorisé par de grands succès militaires, ses frais de guerre.

Ni l'histoire des relations internationales, ni les principes de l'équité ne sauraient justifier une pareille demande adressée à la Russie qui, bien que n'ayant pas jusqu'ici été favorisée par la fortune des armes, ne se trouve en aucune façon dans la position d'une Puissance vaincue, réduite à subir la volonté du vainqueur.

Dans ces conditions, la recherche d'une forme à adopter pour couvrir une semblable transaction, aussi bien que l'ajustement du montant qui serait à rembourser, devient inutile.

第五號

10. The Plenipotentiaries of Japan advanced this claim not so much on account of the material advantages likely to accrue to Japan from its acceptance, as from the conviction that it was in accordance with the principles of the law of nations. It is no doubt true that the claim is without the support of exact precedent in international relations, but that circumstance is due to the fact that no cases have arisen in which belligerent ships of war have in the sequel of battle sought asylum in neutral ports and been there interned. If prolonged sanctuary had not been extended to the vessels in question it is probable that the larger part of them would ultimately have fallen into the hands of the Japanese forces. It does not seem to be consistent with the principles of justice that vessels by seeking the hospitality of neutral ports, should be permitted to escape the consequences of battle. There can be no question of national dignity in connection with the fulfilment of international obligations. The claim of the Plenipotentiaries of Japan applies only to vessels that were damaged in battle. In the circumstances of the case, the Plenipotentiaries of Japan feel justified in maintaining the claim.

第六號

10. Les Plénipotentiaires du Japon ont émis cette réclamation, non pas autant à cause des avantages matériels de nature à revenir au Japon de son acceptation, que dans la conviction qu'elle était en conformité des principes du droit des gens. Il est vrai, sans doute, que la réclamation est dénuée d'appui d'un précédent exact dans les relations internationales, mais cette circonstance s'attribue au fait qu'il n'est survenu aucun cas où les vaisseaux de guerre belligérants avaient, à la suite de bataille, cherché l'asile dans des ports neutres et y étaient internés. Si un abri prolongé n'avait pas été accordé aux vaisseaux de guerre en question, il est probable qu'une majeure partie en seraient finalement tombés aux mains des forces japonaises. Il ne semble pas compatible avec le principe de justice que les vaisseaux, en cherchant l'hospitalité des ports neutres, soient permis de s'échapper aux conséquences de la bataille. Il ne peut y avoir aucune question de la dignité nationale par rapport à l'accomplissement des devoirs internationaux. La réclamation des Plénipotentiaires du Japon ne s'applique qu'aux vaisseaux qui ont été endommagés dans les batailles. Dans ces circonstances, les Plénipotentiaires du Japon se voient justifiés à maintenir cette réclamation.

第七號

In the afternoon sitting of August 17th, Articles X and XI have been discussed. Regarding the Article X, the Plenipotentiaries have shown a divergency of views which has not been settled. Article XI has been reserved for further discussion. The Conference adjourned till to-morrow August 18th.